

ひいおじいちゃんを支えた手帳

別府市立青山中学校 1年 藤原 愛海

私のひいおじいちゃんは3年前に95歳で亡くなりました。そのひいおじいちゃんについて、最近おばあちゃんから話を聞きました。

ひいおじいちゃんは、数学の先生になりたくて広島大学に通っていたそうです。そのころ広島で原爆にあいました。ひいおじいちゃんは、原爆が落ちたすぐ近くにいて、建物のガラスが全部割れて人に突き刺さっていたそうです。そんな中でもひいおじいちゃんは大きな怪我もせず、一生懸命勉強をして数学の先生になりました。

しかし、原爆は黒い雨とも言われ、それを浴びた人は将来とても重い病気にかかることがわかつてきました。ひいおじいちゃんはそれが恐くて健康にとても気をつけていました。体調が良くないと、もしかして原爆のせいではないかと心配していたそうです。

そんな中でひいおじいちゃんの支えになっていたのが「被爆者手帳」でした。この手帳を病院や薬局で見せると、無料になったそうです。これは国民から集めた税金が使われていると母から聞きました。この手帳のおかげでひいおじいちゃんは安心して病院に通えていたそうです。死ぬときは絶対に家がいい！と言っておばあちゃんが家で介護をしていました。家にお医者さんやヘルパーさんが来て、点滴をしたり、たくさんお世話をしてくれました。それもこの手帳を使わせてもらったんだよとおばあちゃんが教えてくれました。ひいおじいちゃんはいつもこの被爆者手帳に感謝していました。

原爆が落とされて約80年、学校の平和授業でしか原爆のことを学ぶ機会はないけれど、原爆によってその後何十年も不安を抱えながら生きた人がいて、その人を日本のみんなが税金で助けていたことを知りました。ひいおじいちゃんは大きな病気をすることもなく、老衰で天国へ旅立ちました。眠っているような顔でした。ひいおじいちゃんに被爆者手帳があつてよかったですと思いました。

最近は物価高騰で生活するのも大変だとよくテレビで見ます。そんな中で、税金を納めている大人はすごいなと思います。払いたくないと思う人もいると思います。私も大人になって税金を納めるようになったとき、このお金がひいおじいちゃんのような人を助けることにつながるんだなと思い出そうと思います。人は助け合って生きていることを教えてくれたひいおじいちゃんを私は忘れません。